



厚生労働省

関東信越厚生局

令和 6 年度地域づくり加速化事業市町村支援に係る報告会

関東信越厚生局における
令和 6 年度 地域づくり加速化事業について

令和 7 年 3 月 6 日

関東信越厚生局 健康福祉部 地域包括ケア推進課

1. 令和6年度 支援自治体（支援テーマ・アドバイザー）

支援自治体	支援テーマ	アドバイザー（敬称略）
矢板市 (栃木県)	介護予防ケアマネジメント 通いの場 生活支援体制整備	川越 雅弘 (（株）日本医療総合研究所 地域づくり推進部 部長) 佐藤 淳一 (一般社団法人 日本介護支援専門員協会 栃木県支部) 畠山 浩志 (兵庫県洲本市 健康福祉部 介護福祉課 長寿支援係 理学療法士 兼 生活支援コーディネーター)
富士見市 (埼玉県)	サービス・活動B (通所型) サービス・活動D	菊池 一 (千葉県松戸市 福祉長寿部 高齢者支援課 課長補佐) 服部 真治 (（株）日本能率協会総合研究所 主幹研究員)
長岡市 (新潟県)	サービス・活動C	鶴山 芳子 (公益財団法人 さわやか福祉財団 常任理事 共生社会 推進リーダー) 山田 実 (筑波大学 人間系 教授)

2. 伴走支援において大切にしたこと

支援先である市町村の皆さんにとって、「気づき・ヒントを一つでも得てほしい」と言う気持ちで取り組みました。

<市町村の状況はさまざまである>

- 上司（首長、直属上司等）や他課（政策部門、財政部門等）がなかなか理解してくれない。
- 課内の中でも、事業への思いや課題感は人それぞれ違うこともある。
- 課題だと感じている事と、真の課題は違うところにある場合もある。

<厚生局として大切にしたこと>

- 支援先である市町村との信頼関係づくり（支援中に本音で話し合える関係性）。
- 市や県の思いを言語化し、アドバイザーへ伝える懸け橋となる。
- 全体的な視点から、伴走的支援が円滑に進むよう連絡・調整等を行った。

3. 次年度の伴走支援に向けて厚生局の役割

厚生局としての役割や使命を持って支援に入りたいと思います。

- 市町村及び都県職員の本音を聞ける信頼関係性をつくる。
- 市町村及び都県職員の思いをアドバイザーへ伝える懸け橋となる。
- 市町村の立場からに偏らず、地域に暮らす高齢者の立場から、ものごとを見ていく。
- 誰も（住民も含め）が理解できる制度説明等ができるようにする。
- 市町村が担う業務の理解を深める。例えば、財政から施策形成等の市町村ルール等が分かると尚よい。
- 地域支援事業のみならず、一般会計で実施されている事業等との連動を意識する。
- 次年度のフォローアップの機会を持ち、参加された市町村との関係を切らないように都県の皆さんと相談しながら進めていく。

4. 関東信越厚生局管内の市区町村・都県の皆さんへ

業務の中でこんなことありませんか？？

- 地域ケア会議を毎月実施しているけれど、地域課題の抽出や解決方法が進まない。
- 地域のリーダーに声をかけているものの、なかなか通いの場がない。
- 地域支援事業の事業担当者がそれぞれ頑張っているが、事業がバラバラで連動性を感じない。
- 要支援や事業対象者の方が、入浴を希望してデイサービスを利用している。本当にこれでいいのかな？
- ちょっとした困りごとへのサービスを作っていくみたい。



この事業を活用して、一緒に考えていきましょう！！

～さいごに～

ご清聴ありがとうございました。

これからも、都県及び市区町村の皆様と協力し合いながら地域包括ケアシステムの深化・推進を図って参りたいと思います。

今後もどうぞよろしくお願ひします。

